



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**(共通)**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1110		
科目名	文学 2		
担当教員	山崎 真紀子		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	火 2		
講義室	1314	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	総合教育科目		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	文化教養		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-D〔市民的素養と市民的教養〕市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観、動機を動員することができる。 DP2-A〔日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢〕地球的視点で物事を多面的に捉え、日本の精神文化を理解し異文化との交流の重要性を認識することができる。 DP4-I〔表現力・分析力〕文章表現を扱いつつ、情報の収集と取舍選択、分析を円滑に粉うことができる。 DP6-K〔表現力・対話力、ライティングコミュニケーション、オーラルコミュニケーション〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 A1 文化的自己意識、文化的多様性への理解（10%） A2 異文化適応、言語的コミュニケーション（10%） D1 文化的素養、知識の獲得、市民参加のためのコミュニケーション、市民的行動と省察と参加（40%） I1 内容理解、文理構造の分析、解釈、読者の声（15%） I2 表現、コミュニケーション（5%） K1 ライティング・コミュニケーション、目的及び文脈の理解、構成、内容の展開（10%） K2 オーラル・コミュニケーション、内容の構造化、言葉選び、話しの運び（10%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	2進行情期～3発展期		
科目概要・キーワード	第二次世界大戦後の昭和期の日本文学について、具体的なテキストの読解を通して考察していきます。文学は、政治・経済・文化の諸ジャンルとの交錯の中で構築されてきました。ここでは文学作品だけでなく、法制度や経済についての言説、演劇や美術、広告のコピーなど様々な表現を取り上げ、多角的な視点で昭和文学を読む力を身につけることを目標とします。授業形態は講義式で行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、または各授業を補完・代替するためのオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 キーワード：言語的コミュニケーション・コミュニティと文化の多様性・内容理解・解釈・言葉選び・内容の構造化		
授業の趣旨	■ 副題 文化的素養や市民的教養を修得し大学生活を送るうえで必要な言語的コミュニケーション、分析力、表現力、書く力を身につける。 ■ 授業の目的		

	日本の精神文化を理解し、多様な価値を受容する能力を養うのに必要な分析力、探求力、表現力、対話力を修得し、他者理解能力など市民生活や大学生活を送るうえで必要な能力を身につける。 ■授業のポイント 日本近代文学の作品を読むことを通して、総合的な日本語力と読解力、文脈に応じて言語を理解する内容理解力、分析力を習得する。文学作品を通して想像力を養い、文化的多様性を理解する。								
総合到達目標	■市民的素養と市民的教養を身につけるために、日本文学の基礎知識と、作品の読解方法を理解する。 ・日本近現代文学の作品を読み、文脈を的確に読解することができる。(2～13回) ・作品の文体や表現方法、背景を具体的に説明することができる。(2～13回) ■日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢を身につけるために、日本文化・異文化の理解を深め、物事を多角的に捉える態度を習得する。 ・文学作品から、時代・環境・年齢・性別など自分と異なる立場の人間の感情や問題を読み取り、多様な視点で物事を考察することができる。(2～13回) ・文学作品の読解を通して、日本の精神文化を理解し、説明することができる。(2～13回) ■理解力・分析力・表現力・コミュニケーション能力を高めるために、作品を正確に読解・分析し、自らの考えを的確に表現する技能を身につける。 ・文脈に応じて言語の持つ意味を正確に理解し、的確な言葉を用いて文章を記述することができる。(8、14回) ・自分の考えを形成し、他者に正確に伝える力を身につけて、コミュニケーションを円滑に行うことができる。(2～14回)								
成績評価方法	■毎回の授業時課題（50％）：適用ルーブリック A1・A2・I2・K2 （評価の観点）授業をよく視聴し、理解できているかどうかを見ます。文学作品の読解力と時代背景、文化、習俗の理解、語彙力、漢字を正確に読む力を朗読力で評価します。 （フィードバックの方法）提出後の授業時にフィードバックします。 ■授業内テスト：中間と期末（50％）：適用ルーブリック D1・I1・K1 （評価の観点）文学作品の内容理解、文理構造の分析、解釈、文脈の理解などが正確になされているかを問います。答案の表現が適切かどうかを評価します。 （フィードバックの方法）提出翌週の授業時に講評します。								
履修条件	特にありません。								
履修上の注意点	教科書は必ず持参してください。持たないで受講しても理解できません。また朗読しておくことが必要です。								
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、成績評価の仕方などの説明）、イントロダクション ②授業概要 ガイダンス授業。授業の内容や進め方、使用する教科書、成績評価基準などについて確認する。(A1、I1) ③予習(120分) 指定されたテキスト（教科書）の中から関心のある小説を1作品読む。 ④復習（120分） 予習で読んだ作品の内容を、講義で学んだ方法で解釈し、ノートに書いておく。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> 2回目 ①授業テーマ 太宰治『ヴィヨンの妻』を読む（1回目）。 ②授業概要 太宰治の代表作の一つである『ヴィヨンの妻』（1947年）を作品全般の物語内容を確認し、当時の時代状況、文化的背景の説明を受ける。授業の理解度を確認する課題に取り組む。(D1、I1) ③予習(120分) 作品全編を読む。 ④復習（120分） 講義で学んだ語彙を復習し、難しい言葉の知識の定着を図る。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ 太宰治『ヴィヨンの妻』を読む（2回目）。 ②授業概要 前回提出した課題について解説を受ける。太宰治『ヴィヨンの妻』の作品内容を把握 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、成績評価の仕方などの説明）、イントロダクション ②授業概要 ガイダンス授業。授業の内容や進め方、使用する教科書、成績評価基準などについて確認する。(A1、I1) ③予習(120分) 指定されたテキスト（教科書）の中から関心のある小説を1作品読む。 ④復習（120分） 予習で読んだ作品の内容を、講義で学んだ方法で解釈し、ノートに書いておく。	2	2回目 ①授業テーマ 太宰治『ヴィヨンの妻』を読む（1回目）。 ②授業概要 太宰治の代表作の一つである『ヴィヨンの妻』（1947年）を作品全般の物語内容を確認し、当時の時代状況、文化的背景の説明を受ける。授業の理解度を確認する課題に取り組む。(D1、I1) ③予習(120分) 作品全編を読む。 ④復習（120分） 講義で学んだ語彙を復習し、難しい言葉の知識の定着を図る。	3	①授業テーマ 太宰治『ヴィヨンの妻』を読む（2回目）。 ②授業概要 前回提出した課題について解説を受ける。太宰治『ヴィヨンの妻』の作品内容を把握
回	内容								
1	①授業テーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、成績評価の仕方などの説明）、イントロダクション ②授業概要 ガイダンス授業。授業の内容や進め方、使用する教科書、成績評価基準などについて確認する。(A1、I1) ③予習(120分) 指定されたテキスト（教科書）の中から関心のある小説を1作品読む。 ④復習（120分） 予習で読んだ作品の内容を、講義で学んだ方法で解釈し、ノートに書いておく。								
2	2回目 ①授業テーマ 太宰治『ヴィヨンの妻』を読む（1回目）。 ②授業概要 太宰治の代表作の一つである『ヴィヨンの妻』（1947年）を作品全般の物語内容を確認し、当時の時代状況、文化的背景の説明を受ける。授業の理解度を確認する課題に取り組む。(D1、I1) ③予習(120分) 作品全編を読む。 ④復習（120分） 講義で学んだ語彙を復習し、難しい言葉の知識の定着を図る。								
3	①授業テーマ 太宰治『ヴィヨンの妻』を読む（2回目）。 ②授業概要 前回提出した課題について解説を受ける。太宰治『ヴィヨンの妻』の作品内容を把握								

	し、登場人物の感情を読み取る。教員が朗読するのをテキストで追って、よく聞き取る。授業のポイントを把握できたか確認のための課題に取り組む。(D1、I1) ③予習(120分) 作品の全編を読み、あらすじをノートにまとめる。 ④復習(120分) 講義で学んだそれぞれの登場人物の性格を言語化してノートに書く。
4	①授業テーマ 太宰治『ヴィヨンの妻』を読む(3回目)。 ②授業概要 前回提出した課題について解説を受ける。第二次世界大戦後の荒廃した日本の状況の説明をつける。教員が朗読するのをテキストで追って、よく聞き取る。授業のポイント把握できたか確認のための課題に取り組む。(A1、D1、K1) ③予習(120分) 作品全編を3度読む。あらすじをノートに書く。 ④復習(120分) 同時代評を調べてノートにまとめる。
5	①授業テーマ 林芙美子『下町』を読む(1回目)。 ②授業概要 前回提出した課題について解説を受ける。林芙美子『下町』(1949年)の作品の内容把握をし、本作品の文体の特徴について学ぶ(D1、I1)。教員が朗読するのをテキストで追って、よく聞き取る。授業のポイント把握できたか確認のための課題に取り組む。(A1、K1) ③予習(120分) 1949年の社会状況、文化状況を図書館で調べてノートに記す。 ④復習(120分) 講義で学んだ文学作品における文体について200字程度でまとめる。
6	①授業テーマ 林芙美子『下町』を読む(2回目)。 ②授業概要 前回の課題についての説明を受ける。作品内容を把握し、本作で描かれている社会状況や家族関係について「時代」をキーワードに説明を受ける。教員が朗読するのをテキストで追って、よく聞き取る。次回の中間テストについての説明を受け、授業のポイント把握できたか確認のための課題に取り組む。(A1、A2、D1、I1) ③予習(120分) 作品全編を2度読み、内容をノートに記す。 ④復習(120分) 本作品で描かれている時代背景を図書館のデータベースで調べて、重要記事を3篇選び、その内容をノートにまとめる。
7	①授業テーマ 中間テストを受ける ②授業概要 本講義の2回目～6回目までの学習内容が習得できているか確認のためのテストを受ける ③予習(120分) 第2回～7回までの授業内容の作品を読みなおし、これまでの授業ノートを見て復習しておく。 ④復習(120分) テストでできなかったところを、ノートを見ながら考察し、改めて理解を深める。
8	①授業テーマ 中間テストの講評および三島由紀夫『志賀寺上人の恋』を読む(1回目)。 ②授業概要 第7回目に行った中間テストの講評を受ける。第2回～6回までの授業における内容とポイントの確認をする。三島由紀夫『志賀寺上人の恋』(1954年)の背景にある日本の寺院についての解説を受ける。(D1、I1) ③予習(120分) 三島由紀夫『志賀寺上人の恋』を二度読む。 ④復習(120分) 中間テストでうまく書けなかったところを、もう一度解きなおしておく。また、三島

	由紀夫『志賀寺上人の恋』の背景にある日本の寺院の特徴を図書館などで調べてノートに書く。
9	①授業テーマ 三島由紀夫『志賀寺上人の恋』を読む（2回目） ②授業概要 三島由紀夫作家案内と本作の解説を受けて、日本の宗教観について考察する。（D1、I1、K1）。授業のポイント把握できたか確認のための課題に取り組む。（A1、A2、DI1） ③予習(120分) 作品に描かれた寺院についてその歴史を調べてノートに取る。 ④復習（120分） 三島由紀夫について作家案内の書物や文献を図書館やデータベースで調べて、その内容をノートにまとめる。
10	①授業テーマ 三島由紀夫『志賀寺上人の恋』を読む（3回目） ②授業概要 前回提出した課題について解説を受ける。三島由紀夫『志賀寺上人の恋』の作品構成の解説を受け、授業のポイントである課題を考察し提出する。（D1、I1、K1） ③予習(120分) 三島由紀夫『志賀寺上人の恋』を二度読む。 ④復習（120分） 本作におけるまとめ、作家案内についてノートに600字でまとめておく。
11	①授業テーマ 庄野潤三『道』を読む（1回目）。 ②授業概要 前回提出した課題について解説を受ける。庄野潤三『道』（1962年）の読解方法の説明を受け、文学史上に称されている「第三の新人」についての解説を受ける。授業のポイントを確認するための課題を提出する。（D1、I1、K1） ③予習(120分) 庄野潤三『道』を2度読んでおく。 ④復習（120分） 「第三の新人」についてほかにどのような作家がグルーピングされているか図書館などで調べ、その作家の作品を読む。
12	①授業テーマ 庄野潤三『道』を読む（2回目） ②授業概要 前回提出した課題について解説を受ける。第二次世界大戦後の核家族化について、本作ではどのように描かれているか、その特徴の解説を受ける。授業内容を確認する課題を提出する。（D1、I1、K1） ③予習(120分) 作品の隠れた深みについて、思いついたことを記しておく。 ④復習（120分） 授業時の解説ノートを読み、作家自身の兵役体験がこの作品に影響を及ぼしているか、関連資料を用いて考察し、ノートに記しておく。
13	①授業テーマ 庄野潤三『道』を読む（3回目） ②授業概要 前回提出した課題について解説を受ける。庄野潤三『道』に描かれた家族の問題がどのような方法で描写されているか解説を受ける。ポイントとなった授業内容を確認する課題を提出する。（D1、I1、K1）。次週の期末テストの注意点を受ける。（I1,K1） ③予習(120分) 庄野潤三の芥川賞受賞作品など、ほかの短編小説を一篇以上読んでみる。 ④復習（120分） これまでの授業時の解説をメモしたノートをよく読んでおく。
14	14回目 ①授業テーマ 今までの総習としての期末テストを受ける。

	②授業概要復 これまで読んできた作品である『ヴィヨンの妻』『下町』『志賀寺上人の恋』『道』について理解ができているか、学習内容の定着を見るための期末テストを受ける。 (I1,K1) ③予習(120分) 今までのノートを見ておく。これまで授業で読んだ全作品について、再読しておく。 ④復習 (120分) テストで答えられなかった問題をノートや作品をじっくり読みなおし、正しいと思われる答えをノートに書いておく。
15	①授業テーマ 期末テストの講評を受ける。 ②授業概要 これまでの学習が身についたか、答案の構成や書式などを含めた期末テストの講評を受ける。文学作品読解力が身に付き、描かれていた大維持世界大戦後の日本文化や社会状況、家族問題などの理解が深まったか確認する。そして、なぜ日本文学は何を理解するのに重要なツールとなるのかの解説を受ける。(A1、A2、D1、I1、K1) ③予習 (120分) これまですべての復習とノートを見ておく。 ④復習 (120分) 文学が社会や文化の中でどのような役割を果たしていたのか、また、小説を成り立たせている方法について800字の評論を段落構成に注意して書く。
関連科目	文学 1 (RMGT/SSCS 1109)
教科書	『須賀敦子を選んだ日本の名作』河出文庫、2020年12月 (ISBN978-4-309-41786-8)1400円+税 他、授業時の配布プリント
参考書・参考URL	授業内でプリント配布。および必要に応じてお伝えします。
連絡先・オフィスアワー	開講時にお知らせします。
研究比率	

